

クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金

● **インフラ整備：300億円**（R4補正予算：200億円、R5当初予算案：100億円）

車両導入と充電器等のインフラ整備は車の両輪。

特に、**充電インフラは前年度に約65億円を措置し、民間の事業者の高い投資意欲を踏まえ、前倒して申請受付を終了。**

引き続き、整備支援を継続・拡充していくべく、**今年度は約3倍となる約175億円を措置する。**

【補助内容】

① **V2H機器/外部給電器の導入に対する補助**
(電気自動車から家庭への給電が可能に)
【約50億円】



② **充電インフラ整備の補助**
【約175億円】



③ **水素ステーション整備の補助**
【約75億円】



目標（2030年）
充電インフラ：公共用の急速充電器3万基を含む15万基
水素ステーション：1千基

(出典)
<https://www.nichicon.co.jp/products/ess/system03.html>

※令和5年度当初予算案は、3/13現在国会審議中であり、確定するのは予算成立後となります。

充電インフラの整備に向けた取組状況と課題

- 電動化社会の実現に向けて、電動車の普及と充電インフラの整備を、車の両輪として推進。政府として、**2030年までに、公共用急速充電器3万基を含む15万基の充電器を整備**することを目標としている。
- 22年度は、充電インフラ整備のための補助金として約65億円を措置。課題となっている**マンションへの導入、高速道路のSA/PA等の混雑エリア、空白地帯**について、政府として**重点的に支援**を実施。

普通充電器

【22年度の取組状況】

- ✓ **集合住宅**については、**管理組合での合意形成を円滑化**するため、**パンフレットや導入マニュアルを作成**し、設置方法や補助金申請の紹介など広報を実施。
- ✓ 充電器設置事業者においては、課金体系や充電器設置コストなどで**多様なサービスが登場**。
- ✓ 22年度は、**集合住宅で前年度比約5倍の1600口の申請**。

【23年度の見通しと課題】

- ◆ **集合住宅**とともに、**商業施設**などにおいても、民間事業者が**普通充電器の整備を大幅に増やしていく見込み**。
- ◆ **申請件数の大幅増加**を見込み、**審査業務を効率化し、早期の交付決定・事業着手**を可能とすることが必要。

急速充電器

【22年度の取組状況】

- ✓ 現状では20～30kW、高速でも30～50kWの公共用充電器が多数。**高出力化、複数口化が課題**。
- ✓ **高速SAPA**では、充電渋滞の解消に向けて**支援を拡充**。**200kW6口タイプや、最大で一口150kW充電も可能な充電器**などの導入も進む。
- ✓ **商業施設・コンビニ・ディーラー等**への急速充電器の整備も**支援対象に追加**。**公道での設置実証**も拡大。**50kW、90kW**の充電器が増加。

【23年度の見通しと課題】

- ◆ **高速SAPA**では、**高出力化、複数口化を推進**。**コンビニやディーラー等**でも、**90kW超の導入が進む見込み**。
- ◆ 他方で、**高出力化に伴い、整備後の電気料金負担も増加**。整備の促進には、**トータルでの負担軽減が課題**。
- ◆ **電池容量の大きなEVバスやEVトラック**も登場。**事業所における充電器や高圧受電設備の整備**が課題。

充電インフラ補助金の主な支援強化ポイント (令和4年度補正・R5当初案：175億円)

- 22年度比約3倍となる175億円を措置するとともに、支援を強化し、充電インフラの整備を加速。

1. 普通充電の支援強化

① 補助金申請の簡易化と交付決定の早期化

マンションや商業施設等、広く充電器整備に関する関心が高まる中で、比較的設置方法がシンプルで導入コストが小規模となる普通充電器の設置等を対象に、新たに簡易な申請および審査合理化の措置を講じる。

→交付決定の早期化を図ると共に、上記の申請・審査の方法を選択可能とすることにより、審査業務の平準化を行う。

2. 急速充電の支援強化

① 6口以上の充電器の整備促進

高速道路のSAPAにおいては、場所によっては充電渋滞が発生しており、同時に複数台を充電するニーズが高まっている。SAPAの限られたスペースで効率良く充電器の配置が可能で、高出力で1基6口タイプの充電器の導入を促進する。

→高速道路のSAPAにて、1基6口の充電器を設置する場合、工事費の補助上限額をこれまでの3100万円→6200万円に引き上げ

② 公共用高出力充電器の支援拡充

電気自動車の蓄電池容量の増加に伴い、短時間で充電できる、高出力充電器の整備のニーズが高まっている。充電器の稼働率が比較的高い場所においては、利便性の向上が期待できる一方、高出力充電器の整備に伴い、その後の電力コストが増えることが課題となっている。

→公共用の高出力充電器（90kw以上）については、電力コストの一部も補う観点から、初期投資に係る補助率・上限額を引き上げ、整備を促進

③ 高出力対応の高圧受電設備への対応

EVバスなど多数の商用車の充電環境を計画的に整備できるよう、高出力の充電器や複数車を同時に充電する機器の導入等に必要となる高圧受電設備について補助枠を拡充する。

→新たに、設置設備の総出力が「250kW以上：上限500万、350kW以上：上限600万」を設定

R4年度補正予算・R5当初予算案における補助内容

1. 高速道路SAPAにおける6口以上の充電器整備に対する補助上限額を引き上げ。
2. 急速充電「③その他」のうち、**公共用の90kW以上の高出力である急速充電器設置**に対する補助率・上限額を引き上げ。
3. **マンションや商業施設等**の充電器整備に関する**事前審査を簡素にする方式を新たに創設**（早期の交付決定）。
4. EVバスなど**多数の商用車の充電環境を計画的に整備**できるよう、**規模の大きな高圧受電設備の補助額を増額**。

※急速充電「①・②」は、10kW以上50kW未満の低出力である急速充電器設置については、補助率・上限額を引き下げ。

設置場所	急速充電					
	①高速道路SA・PA		②道の駅・公道・SS・空白地域	③その他		
対象設備	90kW以上	50kW以上	50kW以上	90kW以上（公共用）	50kW以上	10kW以上
補助率 （上限あり）	機器補助率：10/10 工事補助率：10/10		（同左）	機器補助率：10/10 工事補助率：10/10	機器補助率：1/2 工事補助率：10/10	
機器上限額	600（2口まで） 300×口数（3口以上）		（同左）	600（2口まで） 300×口数（3口以上）	300（2口まで） 150×口数（3口以上）	60
工事費上限額	3,100（5口まで） 6,200（6口以上）	2,450	280	280	140	108

対象設備	普通充電				
	ケーブル付き充電設備		コンセントスタンド	コンセント	
	6kW	3kW・4kW	－	－	
駐車場形態	機械式・平置き		機械式・平置き	機械式	平置き
補助率 （上限あり）	機器補助率：1/2 工事補助率：10/10				
機器上限額	35	25	11	7	
工事費上限額	135		135	135	95

設備 総出力	高圧受電設備・設置工事費 補助率：10/10（上限あり）				
		350kW 以上	250kW 以上	150kW 以上	90kW 以上
上限額	600	500	400	300	200

（単位：万円）

※上記表での機器・工事の補助上限額は総額であり、機器の機能や工事内容ごとに個別の上限あり。
そのため、機器の機能や工事の内容によって、必ずしも表中の上限額がそのまま補助されるわけではないことに留意。